

秦 貴典 様  
奈良支部道場生一同様

あれから7カ月になりました、悪夢であってほしいと願いつつも現実の厳しさを突きつけられる日々であります。

1000年に一度といわれる大地震、そして大津波。さらに原発事故と、本当に悪夢としかいいようがありませんでした。3月11日、私にとって忘れられない一日になりました。幸い自分の所は原発事故とは距離があり助かっていますが、本当に他人事とは思えません。

秦師範も16年前阪神、淡路大震災を経験され大変ご苦労されたかと思います。先日の大雨で被災を経験された道場生がいると聞きました。そのご苦労は言葉には言い表せないと感じております。

秦師範及び指導員の皆様にはわざわざ東北（名取）まで足を運んでいただき感謝の言葉もありません。最初会った瞬間胸が詰まり涙声になりました。皆様を被災した現場に案内しましたが、海から10キロ以上有るのに大きい漁船が何艘も横倒しになっていた所を目の当たりにして改めて地震の恐ろしさ大津波の怖さを感じた事だと思えます。テレビで見ると実際現実の現場を見るのでは大違いだと思えます。いかがでしたでしょうか？家も何も無くなり基礎（コンクリート）だけの現場を見たら自然の猛威の恐ろしさをつくづく感じます。

自分の家内も、まさに大津波があった所（名取市閑上）に配達に出ていまして、あと10分遅ければ流されていました。本当に人の運命はわからないものです。大地震のあとはガソリンも無く、食料も乏しく、少しずつ家の片付け及び道場の片付けをしながら何ヶ所も避難所を自転車で道場生の安否確認をしまいいりました。これは本当につらくて涙を流しました。

大津波によって自分の道場生のお父さん、お母さん、ご家族を失った人、自宅を津波で流された人もいます。中にはいまだに遺体が見つからないご家族もいますし、3カ月たってようやく見つかった人もいます。自然の猛威の前に大切な物を奪い失いましたが、しかし、（天が与えた猛威には天をうらまず）

なぜこれほどの多くの人々が死ななければならなかったのでしょうか。見つかってもし遺体が腐乱して判別がつかない人、自分も友人がいまだに見つかっていませんし、多くのご遺体と対面しました。自分の仕事もこなしながら遺体安置

所にお花を届けたり（土、日）は町内会でがれきを片付けたり検索などボランティア活動をしてまいりました。

この頃はやっと落ち着きつつありますが、6月30日をもってご遺体安置所は閉鎖されました。

一時は避難所暮らしをしましたが、その間2人で（土、日）にお花を届ける事を日課にしてまいりました。

自分の行っている事は小さなことかも知れませんが遺体安置所にお花を届けると感謝される為にやっているのではありませんが、でもやらないよりやった方が気持ちも安心します。

心を込めて顔が見える支援をすればその人の心に残るのではないかと思います。一人一人が助け合う事が大切だと思います。支援活動はこれからも微力ながら継続したいと思っております。

また奈良支部の皆さまにはあたたかい心のこもったご支援を心より感謝申し上げますと同時に皆様に宜しくお伝えください。

改めて秦師範には震災後何度も電話で励ましの言葉を頂き大変恐縮しております。幸い自分の命は助かりました。子供が頭を打ち入院しまして大変でした。家の中の物は壊れるし、花の冷蔵庫は暴れて元通りにするのは大変でした。いただきましたお見舞金は、家が全壊、半壊したり、お父さんを亡くしたりなど、その他被災された生徒たちを支援するために使いたいと思います。

皆様感謝しながら生きていく事の大切さを震災から学びました。ありがとうございました。

宮城支部 村上 茂之